



KAZUMOちゃん

留萌市食育推進計画
（第4次 2023-2027）

ダイジェスト版（概要版）

2023（令和5）年3月策定

発行 留萌市地域振興部農林水産課

〒077-8601 留萌市幸町1丁目11番地
TEL0164-42-1837 FAX0164-42-7865

留萌市食育推進計画

（第4次 2023-2027）

～ 「食」を通じて豊かな暮らしの実現へ ～

ダイジェスト版（概要版）

1. 本計画の趣旨・背景（本編1ページ）

留萌市では、生涯にわたって健康で豊かな生活を実現するために、平成20年3月に「留萌市食育推進計画」を策定し、平成30年には「第3次留萌市食育推進計画」を策定し、これまで各年齢層（ライフステージ）に応じた「食育」の取り組みを進めてきました。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、心身の健康への影響も懸念され、食の重要性が一層高まっており、食に関する価値観やライフスタイルの多様化が進む現状においては、新たな日常への対応やデジタル化、SDGsの考えを踏まえた食育の推進が求められています。

これまでの「食育」の取り組みをさらに発展・実践するため、「第4次留萌市食育推進計画」を策定し、生涯にわたるライフステージに応じて、関係者が目指す姿や推進目標、方向性を共有しながら連携・協働し、一体的な取り組みとして食育の推進を図っていきます。

＜計画の位置付け＞

本計画は、第6次留萌市総合計画を上位計画とし、食育基本法第18条及び地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律第41条に基づく計画として位置づけられるものです。

＜計画の期間＞

2023（令和5）年度から2027（令和9）年度までの5年間とします。

2. 第3次食育推進計画の検証（本編3ページ）

第3次食育推進計画（2018-2022）では、第2次食育推進計画（2013-2017）での取り組みを踏まえ、ライフステージに応じた健康で豊かな暮らしが実現できるよう、関係者が連携しながら地産地消の推進を含め、食育を進めてきました。

乳・幼児期（0～6歳）における取り組み
健康教育・離乳食教室の開催、
健診・健康相談事業の開催、
食育だよりの発行、クッキング保育事業、
家庭での取り組み

青・壮年期（19～64歳）における取り組み
青・壮年期を対象にした料理教室の開催、
特定健診・特定保健指導、
広報誌でのコラム掲載、地元食材PR
家庭での取り組み

学齢期（7～18歳）における取り組み
子どもの食農教育推進事業、
栄養教諭による食育事業、
地元食材活用事業、
給食時のかずの子提供、
給食だより・留萌楽しい食育の発行、
にしん漬・鮭飯寿司づくり体験、
家庭での取り組み

高齢期（65歳～）における取り組み
生活習慣病予防講話、調理実習、
ピンピンからだ広場事業、
給食サービス事業、家庭での取り組み

地産地消の取り組み
うまいよ！るもい市、「留々菜」（直売所）、
留萌市かずの子条例、「海鮮店MAP」

3. 留萌市の目指す姿と本計画の基本方針（本編13ページ）

目指す姿

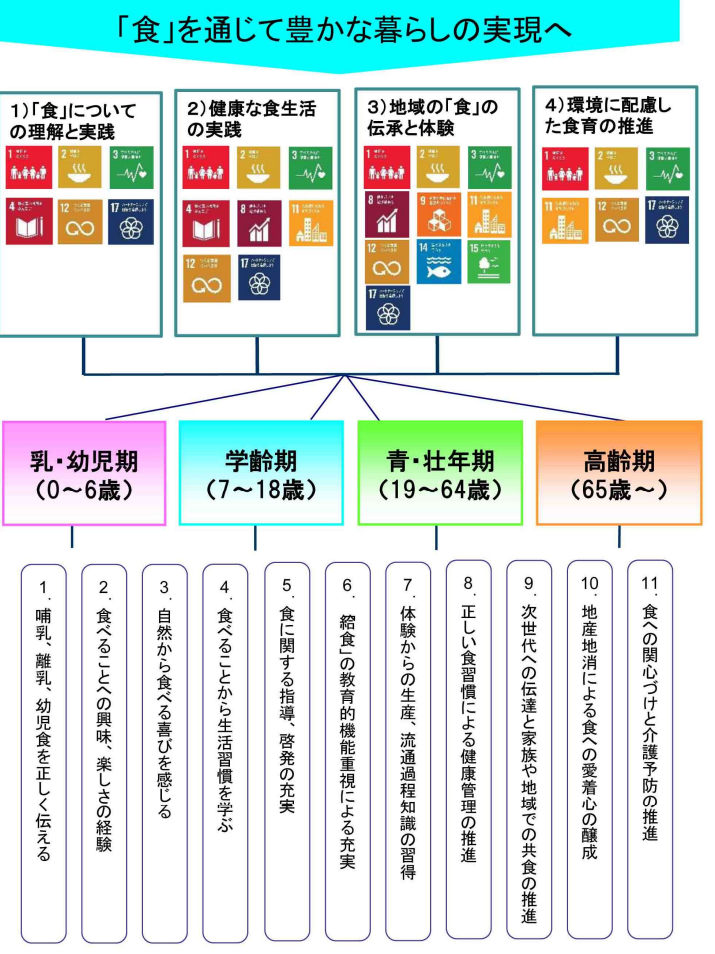
「食」を通じて豊かな暮らしの実現へ

「食」は「食べる」という行動から、健全な食生活の推進やコミュニケーションの充実、食品ロスの少ない社会や豊かな農水産物の活用、食文化の継承など幅広い意味を持ちます。
この計画では、「食」に関する様々な知識を身に付け、「食」に携わる人々の苦労や努力を理解すると共に、伝統的な食文化の継承など豊かな暮らしの実現に向けた街づくりを目指します。

基本目標

- 1) 「食」についての理解と実践
様々な経験を通して「食」に関する知識と、バランスの取れた「食」を選択する力の習得と実践を目指します
- 2) 健全な食生活の実践
栄養の偏りや不規則な食事による肥満や過度なダイエット志向、高齢者の低栄養傾向等、健康面での課題の解消を目指します
- 3) 地域の「食」の伝承と体験
食に対する感謝の気持ちを深め、地域で生産された新鮮で安全な農水産物の消費拡大と、家庭や地域に伝わる料理を大切にします
- 4) 環境に配慮した食育の推進
食材を選択する力を習得し、生産から消費までの循環を意識しながら、食品ロスの削減など環境に配慮した食育を推進します

第4次留萌市食育推進計画(2023-2027)



4. ライフステージに応じた食育推進施策（本編16ページ）

乳・幼児期（0～6歳）
＜現状と課題＞
●幼児期における甘味飲料摂取の増加と野菜接種の減少
●朝食の欠食や生活の乱れによる体調不良 など
＜推進目標＞
◇哺乳、離乳食、幼児食を正しく伝える（推進目標 1）
◇食べることへの興味、楽しさの経験（推進目標 2）
◇自然から食べる喜びを感じる（推進目標 3）
◇食べることから生活習慣を学ぶ（推進目標 4）

学齢期（7～18歳）
＜現状と課題＞
●栄養教諭による食の指導時間の不足
●「早寝、早起き、朝ごはん運動」や「留萌市食育 10 か条」の取り組み
●朝食の欠食や生活の乱れによる体調不良 など
＜推進目標＞
◇食に関する指導、啓発の充実（推進目標 5）
◇「給食」の教育的機能重視による充実（推進目標 6）
◇体験からの生産、流通過程知識の習得（推進目標 7）

青・壮年期（19～64歳）
＜現状と課題＞
●健康についての正しい知識と意識の高まりがみられる
●地産地消による地元食材に対する愛着心の醸成 など
＜推進目標＞
◇食に関する指導、啓発の充実（推進目標 5）
◇正しい食習慣による健康管理の推進（推進目標 8）
◇次世代への伝達と家族や地域での共食の推進（推進目標 9）
◇地産地消による食への愛着心の醸成（推進目標 10）

高齢期（65歳～）
＜現状と課題＞
●加齢に伴う、食欲の減退などによる「低栄養」状態
●増加が見込まれるひとり暮らし高齢者への食事支援 など
＜推進目標＞
◇正しい食習慣による健康管理の推進（推進目標 8）
◇食への関心付けと介護予防の推進（推進目標 11）

〇各ライフステージにおける目標設定

ライフステージ	目 標 設 定	現状値 (年度)	目標 (2027)
乳・幼児 学 齢 青・壮年	家庭において子どもが「ひとり」で朝食を食べる割合	15.7% 2022 (R4)	減 少
乳・幼児	幼児期において甘味飲料を飲まない児の割合	4ヵ月児:100.0% 9ヵ月児:72.0% 2022 (R4)	増 加
乳・幼児	幼児期における朝食での野菜摂取率	1歳6ヵ月児:36.7% 3歳児:26.5% 2022 (R4)	増 加
乳・幼児	3歳児健診時の虫歯罹患率	12.1% 2021 (R3)	減 少
乳・幼児	離乳食教室、幼児期を対象としたおやつ教室の開催数	年2回 2022 (R4)	現状維持
学 齢	学校での食に関する指導時間(栄養教諭、栄養士含む)	年40回 2021 (R3)	増 加
学 齢	学校給食における地元産品を使用する割合	41.6% 2021 (R3)	増 加
学 齢	学校給食における一食当たりの残食量	54.6g 2021 (R3)	減 少
学 齢	学校給食に地元産食材を使用することに対する関心度 (小・中学生世帯)	85.6% 2022 (R4)	増 加
学 齢	小学生を対象とした地場産品を使用した農水産物の加工体験、農・漁業体験事業数	年2回 2021 (R3)	増 加
学 齢	朝食を毎日食べる児童・生徒の割合	86.1% 2022 (R4)	増 加
青・壮年	1日3回食っている人の割合	69.8% 2021 (R3)	増 加
青・壮年	野菜を毎日350g以上食べている人の割合	74.5% 2021 (R3)	増 加
青・壮年	野菜を毎日350g以上食べている人の割合	5.6% 2021 (R3)	増 加
青・壮年	地元産品であることを意識して商品を選択する市民の割合(子育て世帯)	63.8% 2022 (R4)	増 加
青・壮年	食育についての関心度(子育て世帯)	84.7% 2022 (R4)	増 加
青・壮年	食品表示を参考にしている人の割合(子育て世帯)	63.7% 2022 (R4)	増 加
青・壮年	食事バランスガイドを参考に食生活を送っている人の割合(子育て世帯)	31.4% 2022 (R4)	増 加
青・壮年	特定健診受診者(国民健康保険加入者)に対する要保健指導対象者の割合	9.3% 2021 (R3)	減 少
高 齢	介護予防教室参加延べ率	35.2% 2021 (R3)	増 加
高 齢	独居高齢者栄養実態調査における健診受診率	21.8% 2021 (R3)	現状維持

5. 持続可能な食を支える食育の推進（本編23ページ）

留萌市の「食育」や「地産地消」を進める上で、地域の農業、漁業の現状を知ることが大切です。
ここでは農業、漁業の現状と、地域の豊富な食材を活かした地産地消の取組について。
また、感傷に配慮した食育として食品ロス解消のための取り組みや、デジタル化に対応した食育として、動画配信サービスによる地域食文化の継承などの取り組みについて紹介しています。

6. 食育の推進体制・進捗管理（本編28ページ）

食育の推進にあたっては、関係団体などが食育活動においてそれぞれの役割を理解し、相互に連携や補完をしながら、実践の環を広げていくことが重要です。
毎年具体的な取り組み状況や目標の達成状況を担当課に確認し、進捗状況を把握します。